

# 13

## MaaS先進都市ヘルシンキ

— ヘルシンキ、フィンランド  
2016年～

次世代モビリティサービスMaaSによる交通利用の転換

### Key Issue

フィンランドは移動交通手段の約80%が自家用車に依存する車社会である。首都ヘルシンキでは、交通渋滞や環境汚染とともに、高齢化の進展に伴う交通弱者の交通の自由の確保が課題になっていた。また都市計画の視点からは、人口拡大する都市圏への対応から、公共交通中心とした交通体系への移行が課題であった。そのため、公共交通や自動車・自転車のシェアリングサービスを一体的に活用する新たなモビリティサービスの構築が求められた。

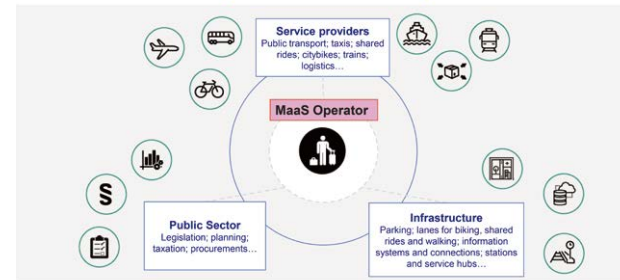
### Project Approach

MaaSの実現に向けた交通法の改正によるオープンデータ化の義務付けと予約決済の開放

ヘルシンキでは、新たなモビリティサービスとして、出発地から目的地までの移動について、公共交通、シェアバイク等の移動手段を統合的に検索でき、予約・決済もスマートフォンのアプリから一括でできるMaaS (Mobility as a Service) が世界に先駆け実現した。フィンランド政府主導で交通法を改正することで、交通事業者データのオープン化を義務づけるとともに、予約決済の事業者間の連携を可能とし、検索～予約決済までを一括して提供できる体制を整備した。



### Elements of Mobility as a Service Ecosystem



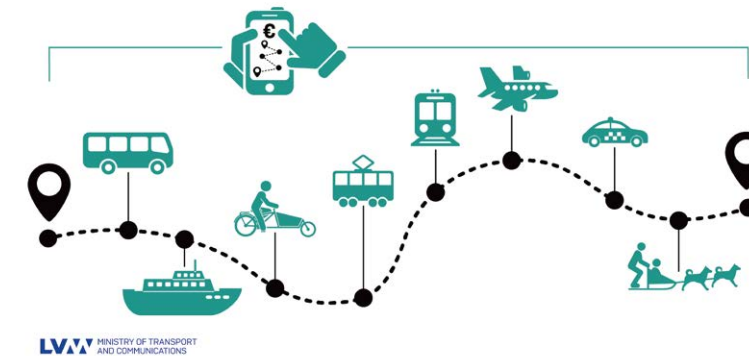
MaaS Operator が公共交通を提供する各主体の仲介役となる。  
出典: MINISTRY OF TRANSPORT AND COMMUNICATIONS

### 民間ビジネスとしてのMaaS展開

MaaSの実現には交通インフラや事業者及び政府間の調整を図るMaaS Operator の存在が必要となる。フィンランドではMaaS Operator は公ではなく、民間が担い、ビジネスとして展開している。フィンランドの交通機関は、輸送サービスに必要なデータを、国が設置するアクセスポイント (NAP) を介して提供しており、プロバイダーやオペレーターをはじめ誰でも利用することができるようになっている。スタートアップ企業のMaaS Global 社が提供するWhimは、公共交通機関とタクシー、レンタカーなどを組み合わせ、その時に最適な移動手段が利用できるサービスとなっていて、同社はこの代表的サービスプロバイダーになっている。

Whimによって、公共交通とシェアバイクは、アプリから一括で予約・決済が可能になった。  
写真: Julia Kivela  
出典: Helsinki Material Bank

### Seamless travel chains from door to door



MaaSアプリは、ドアツードアの移動について、ワンストップで検索・選定・発券・決済を実現する。  
出典: MINISTRY OF TRANSPORT AND COMMUNICATIONS

### Data

サービス提供範囲: ヘルシンキ市内 (338,400 平方キロメートル)  
対象となる交通モード: ヘルシンキ市内の交通事業者が対象 (鉄道、バス、タクシー、レンタカー、レンタサイクル)  
ユーザー登録数: 推定60,000人 (2018年10月)、定額サービス利用者数: 8,500人 (2019年6月)  
事業主体: MaaS Global 社

### To the Next Phase

Whimは、ベルギーのアントワープ、英バーミンガムでもサービスを開始しており、2023年までに60か国に進出する計画を持っている。Whimの普及に伴い、シェアライドサービス、相乗りサービス等の連携が拡大していくことが期待されている。進出にあたっては、各国に応じた法制度の調整や事業者との話し合いが課題となる。

